



令和2年9月30日(水)
練馬区立開進第四小学校
校長 河崎 晃二

開四小だより

10月号

心を育てる道徳の時間

校長 河崎 晃二

新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度の学校公開は、先日前お伝えしたように分散して行うことになりました。公開日は10月10日、11月14日、28日、1月23日の4日間で、全体の半数の8学級ずつの公開となります。また、例年一斉に行う道徳授業地区公開講座も上記の日に分散して行い、講演会は中止とします。その代わりに、この紙面で道徳教育についての話をしたいと思います。

*

心の教育は、決して子供の心のある一定の方向に向けさせる教育ではありません。自らが選択して実践する心の力を身に付けることが目的です。ですから、時には判断を誤り失敗することもあります。失敗をしながら「自分をよりよくするのは他のだれでもない自分である。」ということの子供自身に気付かせ、自分を伸ばそうと努力をする気持ちを育てる教育だと考えています。ですから、学校における心の教育の中核をなす道徳の時間は、教師の一方的な生き方・考え方の押し付けの時間ではなく、その時間のねらい(生命尊重、信頼・友情等)に照らして、子供一人一人が自分の生き方の中の課題について深く感じたり、考えたりする時間となります。

人は生まれた環境や育った状況によって「考え方」や「物事の価値判断」が違ってきます。道徳の時間ではその時間で扱う資料中の人物に託して、子供たちは自分の思いを語ります。授業の後半では、資料を通して感じたこと、考えたこと、学んだこと等を、自分の今までやこれから(生き方の中の課題)に重ね合わせて考えていきます。つまり、「自己理解」を深めると共に、自分とは違う考え方があることを知り他者のことにも気付き、「他者理解」を深めていきます。そして、総合的に「人間理解」を深めていきます。

また、このような活動は、幼い頃から家庭・地域社会によって育まれてきた子供たちの美質を更に大きく育てていきます。「道徳の時間は、子供の心の地下水(美質)を汲み上げる時間である。」と、私は思っています。最近、心が痛くなるような出来事ばかりありますが、家庭・地域社会・学校が連携し、子供たちの美質を丁寧に汲み上げ、大きく育てていくことが何よりも大切であると考えています。

道徳の時間は年間35時間あり、「自分自身に関すること」「人との関わりに関すること」「集団や社会との関わりに関すること」「生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の4項目について計画的に指導していきます。私達開四小職員一同、日々の道徳の授業が必ずや子供たちのためになるよう、今後も努力を重ねて参ります。